

# 多様な理工系女性の育成

## - 男女共同参画推進と大学の役割 -

日本女子大学理学部 小館香椎子

私達は現在、いつでも、どこでも、情報を共有できるユビキタス社会にいらしています。先端産業・技術をめぐる競争がますます激しくなる中で、蓄積された知識や技術のみでは対処できない課題をすでに数多く抱えています。このような21世紀のリスク社会では、確かな基礎知識と専門能力に加えて、従来型の発想とは異なる多様な価値観や豊かな感性を持つ知的生産性の高い人材の育成がより一層必要になっています。特に、学術研究で世界をリードすることを目指す大学や企業などの研究機関は、自らの主体的な工夫と努力によって、活力に富み競争力のある男女共同参画推進の組織作りを目指すことが重要です。そして、そのためには、学術研究の担い手として女性研究者を含め様々な人々が能力を発揮して活躍できる環境作りが何よりも大切です。このような状況をうけて、大学では以下の事柄を積極的にかつ地道に取り運び実現を目指す事が望まれているといえるでしょう。

1. 総合的な視点の育成（基礎学力、思考力を磨き、自らを高める努力、実験教育の充実）
2. 強靭な意思とチャレンジ精神の発揮（幅を広げる経験へのチャレンジなど）
3. インターンシップや産学官連携研究の推進（肉体的、精神的な競争への参加の覚悟、交流による広い視点の育成）
4. 女性のネットワークの形成（国内外の学会・研究会への参加の推進（旅費の援助）、理系分野への高校生の勧誘（サマースクールの実施））
5. 多様なロールモデルの育成と提示（技術者・研究差・弁理士・教師・学芸員など）
6. リーダーシップの育成（独立した研究テーマによる自立、独創性の育成）

私自身は、夢のレーザ光が実現した1960年代後半の、マイクロオプティクス黎明期からその基礎と開発、光の並列性を生かしたアナログコンピューティングによる顔画像認識システムの構築、フォトニックネットワーク用機能デバイスの最近の研究に至るまで光技術のめざましい進展を経験し、楽しみながら今日までできました。大学で光学の基礎を学生に講義し、学園祭でホログラフィ実験を自主研究として指導する中で、探究心が啓発され、自信を養い、わくわくするような体験に出会うとき、また卒業研究で、産学連携研究の中でプロの研究者と思う存分意見交換ができるときに、自分が携わり拓いていけるテーマが沢山ある事を感じ、大学院へ、研究者の道へ、進む熱心で活発な女子学生達が確実に育っているのを実感しています。